

意見・要望を明日のまちづくり

市政懇談会の発言から

市民のみなさんから、市政に対し「どう思っていることなどを発言してもらい、より良い白根市を築いていこう」と各地区で開かれた市政懇談会。たくさんの方の意見・要望が出されました。先月号につづいて、この市政懇談会の模様をお知らせします。今回は小林、庄瀬地区で出された意見などを一部ですが紹介します。

信濃川新堤防の工事はいつから

庄瀬地区の発言から

問い 新堤防の建設についてですが、田上線から下はすでに用地買収も完了し、工事もすぐやると聞いていますが...

答え 信濃川新堤防は、白根市全体で約八千坪(大郷五千坪、白井千五百坪、戸石四百五十坪、庄瀬九百坪)の工事計画です。庄瀬地区の場合、当初計画では五十六年度から工事に着手する予定でしたが、草などの除去のみの計画になったわけです。

しかし、こうしたことは、せっかく用地買収に応じていたたいたみなさんの不信を招く行為というところで、十月七日、市長から関係機関へ出向いてもらいました。そして十月二十二日に「用地買収完了地三百五十坪に

公認保育園の建設を早急に

小林地区の発言から

問い 総合計画の中に、六十年度の目標年次までに小林地区にも公認保育園を新築すると計画されていますが、できるだけ早く建設して欲しい。また、新しい保育園ができるまでの間、木山保育園を公認保育園にしてもらえないものですか。

答え 総合計画の保育園整備の目標で未達成なのは、小林地区と鷹巻地区に保育園を新築すること、白根保育園の改築です。これからは、目標年次までになんとか整備したいと思っているの

土地利用計画の農用地区域の線引きは

土地利用計画の見直しを

問い 財政面で非常に苦しい状況です。来年度の財源関係でも、公共投資に向ける自己財源が小学校の建設関係にほとんど食われる状況が出てきます。このため、保育園の整備は学校建設の進み具合をみながら、一日も早く実現していきたいと思っています。

答え これまでの農振法で優良農地は農用地区域ということになるので、見直しをしながら、現在の施設が国の定める児童福祉法の基準に合わないのでも無理です。



昭和58年4月開校をめざして建設工事が始まった小林小学校

小林小と戸頭小の統合に伴う通学対策は

問い 小林小学校と戸頭小学校の統合に伴う通学対策は、どのように考えていますか。

答え これまでのみなさんとの話し合いの中で、統合校舎からおおむね三キロ以上、スクールバスを運行してほしいとの話もありました。なお、この問題については、これからもみなさんと協議を深めていきたいと思っております。

来月以降のテーマ

国際障害者年に思う

一九八一年は国際障害者年。心身に障害をもつ人に対する理解と関心を深め、みんなが参加し、みんなが平等に暮らせるより良い社会づくりをしようとする年。「国際障害者年」にあたり、みんなで考えよう。

暮らしの見直し

冠婚葬祭や、慶弔の贈り物とのお返しなどの簡素化は、皆さんが良いことだと知りながら、なかなかその実行ができていないようです。一部地域では実行しているところもあるとか。冠婚葬祭にむけての皆さんの意見をお寄せください。

地域生活センターに期待

みんなでつくるコミュニティの拠点として、毎年一棟ずつ地域生活センターを整備してきました。有効的な活用の仕方を見込んで考えてみましょう。

お年寄りに愛の手を

お年寄りとともに楽しく過ごす家庭や、今、生きがいを感じているお年寄りを紹介してください。また、あなたの老人福祉に対する考えもお聞かせください。

わが愛するまち・白根

私たちの住むまち白根市。山や海、森や草原など、変化のある自然は、歴史のにも誇り、こと文化遺産もありません。でも、白根市にだってこんな素晴らしいものがあるぞ、と誇ったふるさと自慢や、愛するがゆえにこんなまちづくりを望むなどの意見をお寄せください。



市民談話室

国際障害者年に思う

思いやりをもって社会参加に協力を

小池紀子さん (大郷・農業・37歳)

九月上旬、国際障害者年記念の社会福祉大会に参加しました。市内にも障害者が多くいることに驚き、身障児をもつ母親の体験発表を聞き、血のにじむような子育てに胸をうたれました。聞くところによれば、福祉対策は改善され、向上しつつあると言われていますが、まだまだ多くの問題が残されているように思っています。

私たちもこの障害者年にあたって、気持ちを改め、障害者の立場や考えを十分知ったうえで「思いやりのある心」を育てていきたいと思っています。

そして、地域住民とともに社会に出て、明るく平等な生活ができるようなまちづくりを、やっていかなければならないと思



障害を意図しない社会づくりを

暮らしの見直し

部落で取り決めた約束を守ります

五井キミ子さん (白井・主婦・45歳)

昨年、市の農協婦人部から冠婚葬祭簡素化の申し合わせ事項が配布されました。しかし、良いことであるが、なかなか守られないのが現状のようです。冠婚葬祭は年々派手になり、それなりに...、エスカレートする一方です。

団地を見つめよう

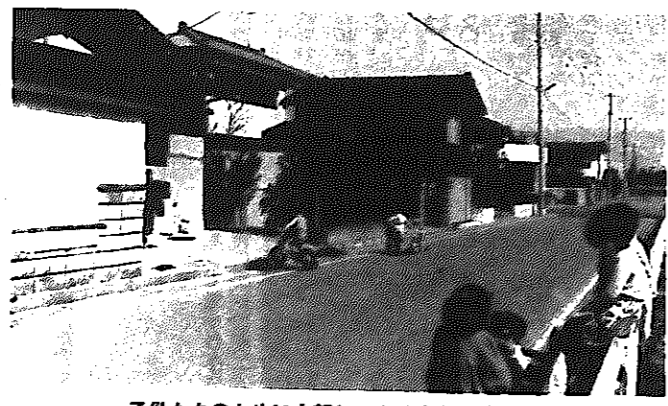
わが愛するまち・白根

青木きよ子さん (下塩俣・主婦・55歳)

そんな中で、今春ある部落の葬式の手伝いに行ったときのことです。そこでは、きまりがしっかり守られていたのです。葬式の手伝いの人、おとぎを食べさせ、後片付けをすませると、部落のしきたりというので、夕方にはみな帰られるのです。一般には、まな板直しといって、手伝いの人から夕食を食べながら帰ってもらうしきたりが多いようです。

私の部落では、香典は千円、会葬の礼状とまんじゅうなどのお礼はなしというところは、良く守られています。

このように地域で、はっきりと決めることが大切だとお思います。葬式だけでなく、病氣、出産、婚礼などのお返しについても、みんなで考え直したら良いのではないかと思います。



子供たちのためにも新しいふるさとづくりを

ふるさと自慢のできる人は幸福です。東京生まれの人には、

きません。よその見のおまつりよりは、みんなが苦しくしてつくったまつりに参加し、仮装盆踊り、おみこしなど汗を流した喜びが強烈な思い出として残るのではないのでしょうか。

私たちは住民一体となって、団地の発展につながる新しいコミュニティづくり、より良い明日のために、今果立ちつつある未来の子供たちのために、団地フェスティバルを企画するチャンスではないかと思うのです。

お年寄りとともに楽しく過ごす家庭や、今、生きがいを感じているお年寄りを紹介してください。また、あなたの老人福祉に対する考えもお聞かせください。